

平成30年賀詞交換会

偕行社事務局



平成30年1月9日、偕行社は靖國神社昇殿参拝の後、靖国会館「偕行の間」で賀詞交換会を開催した。

国歌斉唱の
のち、挨拶に
立った富澤理事長は、偕行社の会員構成について説明し、役員の若返りを期待しつつ、旧軍関係会員の方々に対し、偕行社のいろいろな会合に参加して楽しんで頂きたいと述べ、さらに、国内

外情勢に関していろいろな人から、米大統領、北朝鮮、憲法問題に関する質問を受けるが、米国が再び偉大になった時には、米国は世界の秩序維持に関わらざるを得なくなると思っていると語った。

続いて、来賓祝辞。まず小田原潔衆議院議員が、まっとうな国にするまでは、まだまだ時間が掛かるが、しっかりと皆様の期待に添えるように精進し

て参りたいと抱負を述べた。

次に、防衛省の高橋憲一官房長は、我が国の安全保障上非常に厳しい状況にある中、中期防の改訂、あるいは大綱の不断の見直しというかたちで新たな防衛力の構築を今年しっかりとやっていかなければならないと語った。

また、日本郷友連盟寺島泰三会長は、今年は時流転換の年だそうだが、今年中に憲法改正の発議をして来年には国民投票に掛けるという意気込みでは非やってもらいたい。また、自分たちが力を合わせてこれに対応していくことが肝要と述べた。

陸上自衛隊幹部学校校長西浩徳陸将は、今年は、陸上自衛隊においてかつてない改編があるが、失敗しないように全力を尽くして期待に応えたいと力強く抱負を述べた。

水交会齋藤隆理事長は、今年は充電の年、何が出来て、誰が味方かをよく見極めながら充電をする一年だと思いと述べた。

続いて、そのほかのご来賓の方々や法人賛助会員等の紹介、祝電の披露と続き、つばさ会の外薗健一朗会長の音頭で乾杯し、懇談に入った。

宴は、偕行合唱団による合唱披露の後、恒例の軍歌演習で大いに盛り上がり、最後に、隊友会先崎一理事長の中心めで、和やかに終了した。